

# 第5章

## 今後の展望

## 「TWINCLE の 3 年目を終えて」

TWINCLE プログラムがスタートして 3 年が過ぎた。その間、千葉大学の約 200 名の学生／院生を ASEAN に派遣し、ASEAN の連携大学の学生を約 150 名受け入れたことになる。

他のプログラムにない TWINCLE 活動の大きな特徴は、千葉大学の学生が 4 人一組のグループ（全てのグループが文系と理系の混合チーム）を作り、理系研究科の学生／院生が行っている研究の基本的な内容を教材化し、ASEAN の高校生に魅力的に紹介することにある。つまり、ASEAN の高校生に千葉大学で行っている研究の魅力を伝え、千葉大ファンや日本ファンの ASEAN の若者を増やすことにある。3 年が過ぎた時点で ASEAN の高校生延べ 9000 人が千葉大学の学生による授業を行ったことになる。本プログラムが終了する 5 年間後には、その数は約 15000 人となり、10 年後に千葉大学に在学する ASEAN 留学生の中に TWINCLE の授業を聞いた学生が出てくるのが楽しみである。実際に、千葉大学の学生が授業を行ったジャカルタやバンドンの高校生は、千葉大学へ入学する方法を現地の連携大学に質問している。現時点でも効果は相当に上がっていると思われる。このようなプログラムが千葉大学のさらなる国際化を促進させることができると確信している。

また、ASEAN 連携大学から千葉大学に受け入れた学生数は、本プログラム終了時には単純計算によると累積で約 250 人以上となる。彼らのほとんどは千葉大学に約 2 週間滞在ではあるが、彼らの間ではすこぶる好評であるらしく、いくつかの連携大学ではこのプログラムへの参加希望は募集人数に対して 10 倍以上の倍率になっていると聞く。

一方、千葉大学の学生にとって ASEAN の高校生向けに用意する教材の準備はかなりハードな作業である。彼らが本来行うべき修士論文作成のための研究等を優先しつつ、文系と理系の学生が混成チームをつくり、時間的制約の中での協働作業により教材作成を進めることは彼らにとって冒険的な経験であるに違いない。アクティブラーニングによる文理融合活動の成果が ASEAN の高校生への反応となって現れるので、その達成感も相当にある。そのため、このプログラムに再度応募してくる学生が数多く見られる。学生にその理由を尋ねると、やはりこのプログラムにより得るものが多く、なおかつ達成感が相当にあるためと答える学生が多い。

このプログラムは文科省による中間評価で最高の評価となる”S”評価を得ることができた。このプログラムを千葉大学の教員と職員の方々のほぼ全学的なご支援の結果であると同時に、ASEAN の大学および高等学校の関係者の協力による成果であると確信している。この場をお借りして深く感謝の意を表します。

また、このプログラムが終了した後に、さらに内容的に発展させたプログラムを発足させ、教育学部が主体的な役割を演じつつ、千葉大学のグローバル教育の一翼を担えうるプログラムとして根付いていくことを願っています。